

韓国日本文化学会第51回国際学術大会（1）

大場， 健司
朝鮮大学校外国語学部日本語科： 助教授

<https://doi.org/10.15017/1932022>

出版情報：九大日文. 30, pp.93-100, 2017-10-01. 九州大学日本語文学会
バージョン：
権利関係：

◎イベント・レビュウ

韓国日本文化学会第51回国際学術大会(1)

大場 健司

二〇一六年一〇月二二日、韓国・大田の忠南大学校で韓国日本文化学会第51回国際学術大会が開催された。学会では「日本語学・日本語教育」や「日本古典文学」、「日本近代文学」、「日本文学」といった分野ごとに、八つの会場で研究発表が行われた。各研究発表については、国際学会プロシーディング『韓国日本文化学会第51回国際学術大会』（韓国日本文化学会、二〇一六年一〇月）に詳細が記されている。また、韓国日本文化学会のホームページ (<http://www.bunka.or.kr>) でも、学会の情報を知ることができきる。

今回の学会は国際学術大会として開催されたものであるため、九州大学や北海道大学など、日本から多くの研究者が参加していた。筆者が主に聴講した「日本近代文学」の会場では、九州大学の大学院生が多く参加していた。筆者は当時、台湾の国立台湾大学で交換留学を行っていたため、会場の忠南大学校では九州大学の大学院生たちと再会することができた。更に、台湾から韓国を訪れたため、東アジアにおける日本近現代文学

研究を考えるのに良いきっかけとなった。

次に、「日本近代文学」の会場で日本語で行われた研究発表について簡単にまとめた。また、韓国語で行われた発表については、同じ『九大日文』第三〇号に掲載された朴美姪氏（九州大）によるイベント・レビュウ「韓国日本文化学会第51回国際学術大会(2)」で解説されているので、そちらを参照されたい。各研究発表では論じられる作家も、有島武郎（一八七八—一九三三年）、永井荷風（一八七九—一九五九年）、芥川龍之介（一九〇二—一九二七年）、林芙美子（一九〇三—一九五二年）、椎名麟三（一九一—一九七三年）、村上春樹（一九四九年—）と多岐にわたるものだったが、広義の「越境」が共通のテーマとなっているように思われた。例えば、山根祥子氏（惠州学院）の「日本におけるドーデ作品の受容の様相——『最後の授業』の教科書受容比較——」では、フランスの作家アルフォンス・ドーデ（Alphonse Daudet, 1840-1897）の作品が、国境や言語を「越境」して国語や英語の教科書に掲載された経緯が論じられていた。

栗崎愛子氏（九州大）の「雑誌『改造』「現代支那号」の挑戦と破綻——途絶える日中交歓——」では、雑誌『改造』（一九一九—一九五五年）の「現代支那号」（一九二六年七月）において中国が特集されたことの意味が、当時の出版状況などを考慮しながら論じられている。ここにも、文学／雑誌というメディア(media)の「越境」がある。

大石富美氏（九州大）の「芥川龍之介作品の映画化について——映画『南京の基督』における原作者像の利用——」で論じ

られているのも、文学／映画というメディアの「越境」についてである。発表では、芥川龍之介「南京の基督」(『中央公論』一九二〇年七月号)が香港・日本の合作で映画化されたことが、一九九五年のコンテクスト (Context) に注目しながら論じられていた。

頼怡真氏(九州大)の「村上春樹『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』——安部公房『壁』との比較を中心に——」では、先行研究でも論じられることのなかった村上春樹『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』(新潮社、一九八五年六月)における安部公房(一九二四—一九九三年)の『壁』(月曜書房、一九五二年九月)の影響関係が実証されていた。また、村上のルイス・キャロル (Lewis Carroll, 1832-1898) 受容が安部公房を媒介にしたものであることが示されており、日本近現代文学／英文学というカテゴリーを「越境」した内容だった。

金慶湖氏(九州大)の「権名麟三におけるカミュ批判——「異邦人論争を中心に——」では、権名麟三がフランスの作家アルベール・カミュ (Albert Camus, 1913-1960) を批判したことの意味が、広津和夫(二八九—一九六八年)／中村光夫(一九二—一九八八年)の間で行われた『異邦人』論争やキリスト教の問題から論じられていた。ここにも日本近現代文学／フランス文学の「越境」があると言つてもよい。

尹小娟氏(九州大)の「林芙美子における南方体験——「ポルネオダイヤ」から「浮雲」へ——」もまた、林芙美子の南方体験を扱っている点で、作家の「越境」の問題が主題となつて

いると言つてもよい。この発表では、「南方」がどのように表象されているのかが、登場人物の恋愛に注目することで論じられていた。

朴美姪氏(九州大)「有島武郎『或る女』における「ヒステリー」——「狐憑き」をキーワードとして読み解く——」では、有島武郎の小説における「ヒステリー」が、明治時代における同時代言説を調査することで論じられていた。このような言説がメディアを「越境」して生成されていることは、当時のコンテクストを調査する際に重要になってくる問題である。

所由美氏(公州大)の『「断腸亭日乗」に窺える東京の交通——モータリゼーションを中心として——』では、東京で「自動車」が走るようになると、永井荷風の日記『断腸亭日乗』(一九一七年九月一六日—一九五九年四月二九日)において、どのような変化が生じているのかが論じられていた。筆者はこの発表の討論者を担当していたため、モダン (modern) な自動車が登場することでプレモダン (premodern) な交通手段(人力車など)の描かれ方が変わったのではないかとコメントした。つまり、モダンをとおして逆説的にプレモダンが発見されたのではないかという問題である。

勝村誠氏(立命館大)による招請講演「韓日文化葛藤の焦点としての安重根イメージ——ハルビン安重根義士記念館をめぐる日本政治の対応を手がかりに——」では、一九〇九年に伊藤博文(二八四—一九〇九年)を暗殺した安重根(二八七—一九一〇年)が韓国と日本でどのように議論されてきたかが論じられてい

た。安重根研究は韓国では蓄積があるが、日本ではあまりなされてこなかったという。このような状況で、日本で近年刊行されたのが李泰鎮・安重根ハルビン学会編『安重根と東洋平和論』

(勝村誠・安重根東洋平和論研究会監訳、日本評論社、二〇一六年九月)

であった。講演では戦後日本の安重根をめぐる言説の変遷が紹介され、安重根にイマヌエル・カント (Immanuel Kant, 1724-1804) の平和論の影響がある可能性が示され、大変興味深かった。

このように、国境を越えて複数的な視野から研究を行うことは、日本の中でア・プリオリ (a priori) だとされることを相対化することにつながるのではあるまいか。

また、学会では嚴基權氏や坂崎基彦氏などスタッフの方々に大変お世話になったので、ここで感謝を申し上げたい。このイベント・レビューを執筆するにあたっては、韓国語の発表者名や発表題目の日本語訳を、九州大学大学院地球社会統合科学府博士後期課程の朴美姪氏にお願いした。記して感謝申し上げる。最後に、今回の学会の詳細を列記しておく。

■韓国日本文化学会第51回国際学術大会

○場所 韓国・忠南大学校

○日時 二〇一六年一〇月二二日(土曜日)

○後援 忠南大学校、日本国際交流基金

○協力学会 日本比較文化学会、表現学会(日本)、

台湾日本語文学会

【開会式】

○崔長根(韓国日本文化学会会長「開会の辞」)

○吳徳成(忠南大学校総長)「祝辞」

【招請講演】

○勝村誠(立命館大)「韓日文化葛藤の焦点としての安重根イメージ——ハルビン安重根義士記念館をめぐる日本政治の対応を手がかりに——」

【研究倫理特講】

○李敏鎬(韓国研究財団)「한국에 있어서의 연구윤리 모색」(韓国における研究倫理の模索)

【日本語学・日本語教育分科Ⅰ】

■座長 李妙熙(忠南大)

■司会 琴種愛(忠南大)

①金昌男(金剛大)「한국 고등학교 일본어 교과서의 される・られる의 취급 현황」(韓国の高등학교日本語教科書における「れる・られる」の取扱い現況)

討論者 権城(ハンパツ大)

②都基禎(南ソウル大)「『宇治拾遺物語』의 敬語研究——중세 어「申す」의 待遇性」(『宇治拾遺物語』の敬語研究——中世語「申す」の待遇性)

討論者 丁鋼徹(金剛大)

③呉泰均(北海道大)「伝聞表現の間接性と対人関係的発話効果」

討論者 琴種愛(忠南大)

④大谷鉄平(長崎大)「Edward Sapirの意味研究における「心理」と「感覚」——現代言語学への有用性を中心に——」

討論者 趙英姫(金剛大)

⑤趙恵真(北海道大)「日韓漢語動詞の使用様相に関する考察」

討論者 中村智子(培材大)

■司会 丁鋼徹(金剛大)

⑥崔鉉鎮(北海道大)「日韓一型アクセントにおける分節音と音調型の関係」

討論者 李香蘭(圓光大)

⑦金廷珉(麗澤大)「「고」で言い終わる発話に対応する日本語の形式——ドラマの会話文を中心に——」

討論者 李忠奎(西原大)

⑧金直洙(鳥山大)「日本語の身体語彙慣用句の研究——形容詞を句末に使う慣用句の意味分析を中心に——」

討論者 呉泰均(北海道大)

⑨千昊載(啓明大)「소와 시대 엔카 가사 분석」(昭和時代の演歌歌詞の分析)

討論者 都基禎(南ソウル大)

⑩李忠奎(西原大)「「ㄱ어 죽겠다」に関する一考察——「ㄱ어」死にそうだ」との対照を中心に——」

討論者 金廷珉(麗澤大)

【日本語学・日本語教育分科II】

■座長 宋晩翼(ハンバッド)

■司会 崔眞姫(白石文化大)

①鄭相哲(国際日本文化研究センター/韓国国外大)「韓国語「아하!」과日本語「ハ」와의非対応에 대하여」(韓国語「은!」と日本語「ハ」との非対応について)

討論者 邢鎮義(韓南大)

②チエスパ・マリアンナ(北海道大)「日本語とイタリア語における過去時制について——日本語の過去を表す時制を中心に——」

討論者 金英兒(圓光大)

③崔英淑(忠南大)「한국인 일본어 학습자의 일본어 학습 불안 요인 분석」(韓国人日本語学習者における不安要因分析)

討論者 秋山朋子(慶尚大)

④趙恩英(啓明大)「講演で行われた韓国人日本語学習者による日韓逐次通訳について」

討論者 趙宣映(培材大)

⑤崔眞姫(白石文化大)「초급 일본어 학습자의 학습항목 난이도——spo. 레벨 테스트를 이용하여——」(初級レベルにおける学習項目の難易度に関する一考察——SPOTテストを用いて——)

討論者 鈴木美恵(牧園大)

■司会 飯千和也(祥明大)

⑥清水崇文(上智大)、坂田麗子(上智大)「効果的な語用論的指導

を考える——中級日本語習者に対する発話行為の授業実践
を例に——」

討論者 飯干和也(祥明大)

⑦金アラン(上智大)「일본인 대학생의 의견 불일치 장면에

나타나는 담화전략에 관한 일고찰」(日本人大学生の意見不一致
場面にあらわれる談話戦略に関する一考察)

討論者 金殷模(全北大)

⑧澤田敬人(静岡県立大)、白鳥絢也(常葉大)、津村公博(浜松学

院大)「日本の多文化教育をめぐる一考察——ユニバーサル
デザインまでの戦後史から——」

討論者 チェ・ヨンニム(清州大)

⑨權寧成(清州大)「혁신적 교육실험으로 바라본 미래교육
——일본어 교육으로의 적용——」(革新的教育実験からみた未

来教育——日本語教育への適用——)

討論者 朴柔培(カレストウ)

【日本古典文学分科Ⅰ】

■座長 朴熙永(大真大)

■司会 都基弘(ハンバツ大)

①檜垣泰代(京都橋大)「雅語(うつろひたる菊)について」

討論者 金英(大邱韓醫大)

②水谷隆(大阪女子短期大)「古今和歌集四季の部の詞書に見られ
る固有名詞について」

討論者 都基弘(ハンバツ大)

■司会 崔元載(慶熙大)

③イ・ソンミン(白石大)、片龍雨(高麗大)、柳政勲(高麗大)、

高永爛(高麗大)、キム・ジンヨン(高麗大)、金学淳(高麗大)、
崔元載(慶熙大)「미니 심포지엄」[근세 문학 연구의 새로운
방향 모색] (미니심포지움「近世文学研究の新たな方向模索」)

1. 「인문 융합 과제의 속 일문 고전 문학의 역할」(人文融
合課題の日本古典における俗文学の役割)

2. 「한국에서의 근세 문학 논문의 표기법과 용례 표기에
대하여」(韓国における近世文学論文の表記法と用例表記について)

【日本近代文学分科Ⅰ】

■座長 林盛奎(白石大)

■司会 韓基連(江陵原州大)

①山根祥子(惠州学院)「日本におけるドーデ作品の受容の様相
——最後の授業の教科書受容比較——」

討論者 禹聖雅(慶北大)

②栗崎愛子(九州大)「雜誌『改造』「現代支那号」の挑戦と破
綻——途絶える日中交歓——」

討論者 大石富美(九州大)

③大石富美(九州大)「芥川龍之介作品の映画化について——映
画『南京の基督』における原作者像の利用——」

討論者 栗崎愛子(九州大)

■司会 吉美顯(又松大)

④李憲仁(忠南大)、尹惠暎(忠南大)「『애프터 다크』(アフターダ

「ク」에 나타난 양면성」(『アフターダーク』にあらわれた両面性)
討論者 千善美(中源大)

⑤ 千善美(中源大) 「시마자키 도손의 『버찌가 익을 무렵』(桜の
実の熟する時)」론——모성과 어머니에 대한 인식의 성장
——(島崎藤村『桜の実の熟する時』論——「母性と母」に対する認
識の成長——)

討論者 김ム・히지ヨン(大田大)

⑥ 頼怡真(九州大) 「村上春樹『世界の終りとハードボイルド・
ワンダーランド』——安部公房『壁』との比較を中心に——」
討論者 吉美顯(又松大)

【日本近代文学分科Ⅱ】

■ 座長 尹惠暎(忠南大)

■ 司会 黒木了二(大田大)

① 韓基連(江陵原州大) 「『日本の黒い霧』 연구——謀略朝鮮戦争
을 중심으로——」(『日本の黒い霧』研究——謀略朝鮮戦争を中心に
——)

討論者 金慶湖(九州大)

② 金慶湖(九州大) 「椎名麟三におけるカミュ批判——「異邦人」
論争を中心に——」

討論者 松橋さちよ(忠南大)

③ 尹小娟(九州大) 「林芙美子における南方体験——「ボルネオ
ダイヤ」から「浮雲」へ——」

討論者 黒木了二(大田大)

④ 朴美姪(九州大) 「有島武郎『或る女』における「ヒステリー」
——「狐憑き」をキーワードとして読み解く——」

討論者 林盛奎(白石大)

■ 司会 禹聖雅(慶北大)

⑤ 所由美(公州大) 「断腸亭日乗」に窺える東京の交通」

討論者 大場健司(九州大)

⑥ 金晶晶(九州大) 「新感覚派」と金起林——「感覚」と「知
性」の問題を中心に——」

討論者 所由美(公州大)

⑦ 安増煥(韓南大) 「성서적 관점에서 본 엔도슈사쿠의 『스캔
들』」(聖書的観点からみた遠藤周作の『スキヤンダル』)

討論者 姜錫祐(忠南大)

⑧ 尹惠暎(忠南大) 「다라미가 있는 풍경(アイロンのある風景)」
과 「타일랜드」(타일랜드)」론」(「アイロンのある風景」と「タイ
ランド」論)

討論者 鄭相哲(極東大)

【日本学分科Ⅰ】

■ 座長 鄭應洙(南ソウル大)

■ 司会 鄭應洙(南ソウル大)

① チャン・ヘジン(漢陽大) 「1867년 왜관 왜인의 난출사
건으로 본 조일관계」(二八六七年倭館倭人の闖出事件からみた朝日
関係)

討論者 金英(大邱韓醫大)

②金英 (大邱韓醫大) 「일본 향기의 고찰」 아와지시마 필드워크 보고서 (日本の香気の本場、淡路島のフィールドワーク報告)

討論者 チャン・ヘジン (漢陽大)

■司会 チャン・ヘジン (漢陽大)

③白承鉉 (全南大) 「일본의 묘견 (見妙) 신앙에 끼친 백제 칠성 (七星) 신앙 고찰」 (日本の見妙信仰に影響を与えた百濟七星信仰の考察)

討論者 林永彦 (全南大)

④鄭應洙 (南ソウル大) 「정노령」로서의 정성공 —— 「연평초령의 모도 (延平髻齡依母圖)」를 중심으로 —— (鄭道令としての鄭成功 —— 「延平髻齡依母圖」を中心に ——)

討論者 金英 (大邱韓醫大)

⑤小泉優莉菜 (神奈川大) 「키리シ탄 弾圧期における宣教師の書簡に関する研究 —— 信仰の現状との比較を中心に ——」

討論者 鄭應洙 (南ソウル大)

⑥川崎瑞穂 (国立音楽大) 「修験道の護摩供にみる高麗樂の揚拍子の残滓 —— 里神樂のリズム型「테케테ットン」との関係から ——」

討論者 白承鉉 (全南大)

【日本学分科Ⅱ——】

■座長 金泰永 (江陵原州大)

■司会 林永彦 (全南大)

①ウオン・ソング (中部大) 「한·일 노인복지와 보건의료 연계

서비스 발전 방안에 관한 연구」 (韓・日老人福祉と保健医療連携サービスの発展方案に関する研究)

討論者 박·ドンジン (ルター大)

②金鐘勲 (九州大) 「韓国人原爆被害者に対する差別と日本市民団体の援護活動」

討論者 林永彦 (全南大)

③鄭相哲 (極東大) 「역사적 사실과 문화콘텐츠의 탄생 —— 조선과 류큐 표류를 중심으로 ——」 (歴史的事実と文化コンテンツの誕生 —— 朝鮮と琉球漂流を中心に ——)

討論者 劉多度 (慶北大)

④劉多度 (慶北大) 「코미디 TV 지다이기키 장르 연구」 (코미디 TV의 時代劇ジャンル研究)

討論者 鄭相哲 (極東大)

■司会 田鎬成 (江南大)

⑤張味京 (全南大) 「근대 한·일 역사교과서에 표상된 挿画 비교 고찰」 (近代韓・日歴史教科書に表象された挿画の比較考察)

討論者 그온·ジョン (培材大)

⑥林永彦 (全南大)、金泰永 (江陵原州大) 「재일코리안 민족학교의 학교문화로서 교과 창작 고찰」 (在日コリアンの民族学校における学校文化としての校歌創作と内容の考察)

討論者 黃慧瓊 (江南大)

⑦丁鋼徹 (金剛大) 「현대 한일관계에 대한 고찰 —— 피해보상 및 현안을 중심으로 ——」 (現代韓日關係に対する考察 —— 被害補償及び懸案を中心に ——)

討論者 田鎬成 (江南大)

【日本文学分科Ⅱ-2】

■座長 ホ・ファンフエ (ハンパツ大)

■司会 坂崎基彦 (又松大)

①李洪良 (圓光大) 「創造と受容の観点からみる中日文化論」

討論者 朴香花 (名古屋大)

②朴香花 (名古屋大) 「中国人の「日本旅行記ブログ」から見る

対日認識の変容」

討論者 李洪良 (圓光大)

③李徳求 (慧田大) 「祭り／祭禮／祝祭(2)」

討論者 坂崎基彦 (又松大)

④朴順龍 (同志社大) 「FGI를 통한 수형자 교육 프로그램의

유효성 향상에 관한 연구」(FGIを通じた受刑者教育プログラム

の有効性向上に関する研究)

討論者 金鐘勳 (九州大)

■司会 ジョン・ユンソン (牧園大)

⑤李尚珍 (山梨英和大) 「在朝日本人浅川伯教と朝鮮伝統工芸」

討論者 吳秉禹 (大邱芸術大)

⑥ジョン・ユンソン (牧園大) 「대학생 취업지원 프로그램 참

가자의 일본 취업과정과 국내 취업과정의 성향 연구——대

진권 대학생들을 중심으로——」(大学生就職支援プログラム参加者

における日本就職課程と国内就職課程の性向研究——大田権の大学生を

中心に——)

討論者 崔長根 (大邱大)

⑦吳秉禹 (大邱芸術大) 「일본 사가현 아리타의 조선 도공에 대

하여——여성 사기장 百婆仙을 중심으로——」(日本佐賀県有

田町の韓国陶芸について——女性沙器匠の百婆仙人を中心として——)

討論者 李尚珍 (山梨英和大)

⑧崔長根 (大邱大) 「죽도문제연구회의〈대일평화조약〉에 대

한 논리조작 방식」(竹島問題研究会の〈対日平和条約〉に対する論

理捏造方式)

討論者 俞炳久 (大邱大)

⑨俞炳久 (大邱大) 「죽도문제 연구회의 샌프란시스코평화조약

조약에 대한 논증」(竹島問題研究会のサンフランシスコ平和条約捏

造に対する論証)

討論者 崔長根 (大邱大)

(韓國・朝鮮大学校外国語学部日本語科助教授)